

第101期部門長挨拶

部門長(第101期) 高橋 芳弘

日本機械学会技術と社会部門第101期（2023年度）の部門長を務めることになりました千葉工業大学の高橋です。今期副部門長の高藤圭一郎先生（横浜国立大学）と幹事の結城宏信先生（電気通信大学）とともに、運営委員会の皆さまのご協力を得ながら部門の発展並びに社会貢献に繋がるよう励んでまいります。

技術と社会部門は、1991年に発足し今年で32年目を迎えます。部門設立当初から特定の分野に特化せず、分野を横断した領域を対象として活動を続けています。一見無機的に見える機械が人と社会の中で有機的に結合するためには、社会の要求と機械技術の関係を知ることが重要と考えます。本部門では、過去から現在そして未来へと意識を向け、機械工学およびその関連分野の技術と社会に関連する活動を行っています。しかし、2020年、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が停止し制限された状況となりました。これを打開すべく、99期（2021年度）の大高敏男部門長は、新たな取り組みを提案するとともに支援いただいた皆様のご協力のもと、部門発足30年という節目に宮古島を開催地とした部門講演会と国際会議ICBTT/TS2021をオンラインで同日開催されました。また、部門の内規も改正し部門活動を見直されました。100期（2022年度）の佐藤智明部門長は、沖縄復帰50周年を迎えた沖縄にて部門講演会を対面開催し、更に部門の委員会規程および申し送り事項を整理されました。両部門長のご尽力により部門活動を停滞させることなく活性化が図られ、また部門運営の活動指針の明文化により部門運営の基礎固めが完了いたしました。この場をお借りして両部門長に御礼を申し上げます。101期では、この指針に基づき部門評価の維持・向上を目指した継続的に実行可能な運営方法について検討・検証を行いたいと考えています。また、大きな成果を得られるイベント企画や講演会、講習会、セミナーを企画・実施し、多くの会員の皆様にサービスを提供できればと考えております。

社会を取り巻く環境は、日本だけではなく世界各国で厳しくなっています。技術と社会に関連した諸問題を理解し、機械が社会に与える影響および問題解決などを議論するとともに、知識や技術を伝承し且つ蓄積することが求められています。それゆえに、分野を横断的に活動している技術と社会部門の果たす役割もますます重要になってきていると言えます。本部門では、機械工学に関する基幹・応用分野および関連分野で活躍する研究者や技術者、経営者らが集まっています。本部門の強みを活かして工学・技術教育、エネルギー教育・環境教育、設計教育・CAD教育、教育に利用する機械、機械技術史・工学史、技術と倫理、SDGs・



持続可能な社会システム設計と技術など様々な議論ができればと思います。

2023 年は、新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、少しずつ以前の生活に戻ることと思います。部門の皆様とも対面でお目にかかることも増えてくるとと思います。更なる科学技術の発展とより良い社会の実現に向けて、また本部門の発展と部門の皆様をはじめとする学会全体のためにもできる限り努めてまいる所存です。お力添えいただけますと幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2023 年 4 月

(千葉工業大学 高橋芳弘)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.47

(C)著作権:2023 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門